

ISSN 2187-6177

日本語音声コミュニケーション 6

**Japanese Speech Communication 6**

2018. 3



日本語音声コミュニケーション学会  
Society of Japanese Speech Communication

製作 ひつじ書房

## 目次

発刊のことば

論文

等時性に焦点を当てたトルコ人学習者の日本語歌唱音声と音読音声の分析

石山友之 .....1

論文

ロシア語母語話者による日本語アクセントの産出  
—起伏型に焦点を当てて—

木元めぐみ・林良子 .....35

論文

中国語母語話者による日本語名詞アクセントの生成  
—タスクの順序効果に関する検討—

王睿来・林良子・磯村一弘・新井潤 .....50

論文

「枝分かれ」に関する覚え書き

定延利之 .....63

論文

場面から要素を切り出し、言語化するヴォイス

馬場良二 .....84

研究レポート

動詞否定丁寧形で終わる文の発話の印象評定実験報告

—日本語母語話者とロシアの学習者の比較から—

宿利由希子・大内将史 .....138

著者紹介

雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

編集後記

## 発刊のことば

日本語の音声コミュニケーションとその教育を専門に考える研究会「日本語音声コミュニケーション教育研究会」を、私たちが日本語教育学会のテーマ研究会として作ったのが2006年の4月です。7年目(2013年)に会誌を発刊し、11年目(2017年)に、日本語教育学会とは独立した学会になりました。それに伴い、研究会誌も今号からは学会誌になります。ご協力を賜りました方々に心よりお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

『日本語音声コミュニケーション』(英語名 Japanese Speech Communication) は、マルチメディアを駆使したオンラインジャーナルです。紙媒体の雑誌や本と違って、動画そのもの、音声そのものを掲載することができ、掲載されたものは世界じゅうで視聴されます。文字では書き表せないような、ちょっとした「日本的」な仕草でも、日本語を発音している被験者の口の中を撮ったMRI動画でも、日本語の教室の様子でも、世界に向けて発表することができます。

日本語の音声コミュニケーションとその教育に関する私たちの理解をさらに深め、研究を活性化していくために、本誌をご活用下さいましたら幸甚です。

2018年 3月吉日

「日本語音声コミュニケーション学会」代表幹事  
定延利之

## 著者紹介

**石山友之**(いしやまともゆき)

元チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学教育学部講師

主なテーマ：日本語教育、音声学、音韻論、日本語音声の習得

メールアドレス：ishiyamatomoyuki86@gmail.com

主要業績：「トルコ人日本語学習者による母音の無声化の知覚と生成の関係」 In A. N. Tekmen, T. Sugiyama and N. Avdan (eds.), *Japon Dili İncelemeleri*. 129–141 (Türk Japon Vakfı Yayınları, 2015). 「トルコ人日本語学習者の音声の『速さ』と『長さ』に関わる特徴」 In A. Özbek, T. Özşen and K. Kawamoto (eds.), *Japon Dili ve Kültürü Eğitimi Araştırmalarına Yeni Yaklaşımlar* 153–166 (Paradigma Akademi, 2016). 「『学習者中心』を意識した『教材開発』の活動」『ヨーロッパ日本語教育』21:429–435 (ヨーロッパ日本語教師会, 2017). 「トルコ人日本語学習者による長音の知覚境界」 In C. Kahraman and L. Toksöz (eds.), *Japon Dili ve Kültürü İncelemeleri*. 129–140 (Transnational Press London, 2017).

### **Tomoyuki ISHIYAMA**

Former lecturer, Department of Education, Canakkale Onsekiz Mart University, Turkey.

Area of research: Japanese language education, phonetics, phonology, speech acquisition of Japanese.

Mail address: ishiyamatomoyuki86@gmail.com

Main publications: Perception and generation of vowel devoicing in Japanese by Turkish learners. In A. N. Tekmen, T. Sugiyama and N. Avdan (eds.) *Japon Dili İncelemeleri*, 129–141 (Türk Japon Vakfı Yayınları 2015). Prosodic features focused on rate and length in speech by Turkish learners of Japanese. In A. Özbek, T. Özşen and K. Kawamoto (eds.) *Japon Dili ve Kültürü Eğitimi Araştırmalarına Yeni Yaklaşımlar*, 153–166 (Paradigma Akademi, 2016). Learner-Centered Activity of Material Design. In *Japanese Language Education in Europe*, 21:429–435 (The Association of Japanese Teachers in Europe, 2017). Perception boundary of long vowel in Japanese by Turkish learners. In C. Kahraman and

L. Toksöz (eds.) *Japon Dili ve Kültürü İncelemeleri*, 129–140 (Transnational Press London, 2017).

**木元めぐみ** (きもとめぐみ)

神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程。元日露青年交流センター派遣日本語教師・元モスクワ市立教育大学講師。

主な研究分野：日本語教育、第二言語習得、音声学

**Megumi KIMOTO**

Ph.D. student, Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University, Japan

Lecturer at Moscow City Teacher Training University and Japanese language teacher from Japan Russia Youth Exchange Center (2013–2016)

Area of research: Japanese Language Education, Second Language Acquisition, Phonetics.

**林良子** (はやしりょうこ)

神戸大学大学院国際文化学研究科教授

主な研究分野：音声学・音声科学、第二言語習得等

メールアドレス：rhayashi@kobe-u.ac.jp

主要業績：(論文) Hayashi R. et al. “Elicitation of N400m in sentence comprehension due to lexical prosody incongruity”, *NeuroReport* (Vol.12, No.8, 1753–1756, 2001)。林良子他、「MRI 動画による英語音声の調音動態の観察—日本人英語学習者との比較—」『第 25 回日本音声学全国大会予稿集』(91–96、共著、2011)『クリン・クラノ—ドイツ語初級文法と発音』(朝日出版社、2011)、『イタリア語スピーキング』(分担執筆、三修社、2011)、「脳機能イメージング」河野守夫監修『ことばの認知のしくみ』(104–118, 三省堂、2007)。

**Ryoko HAYASHI, Ph D.**

Professor, Faculty of Intercultural Studies, Kobe University, Japan.

Main topics of research: phonetics, phonetic science, second language acquisition.

E-mail address: rhayashi@kobe-u.ac.jp

Main publications: Hayashi R. et al. “Elicitation of N400m in sentence comprehension due to lexical prosody incongruity”, *NeuroReport*, Vol.12, No.8, 1753–1756, 2001. “An

investigation of articulatory movements of English pronunciation using MRI-movie - comparison between native speaker and Japanese EFL-, In: Proceedings of the 25. General meeting of Phonetics Society of Japan, 91-96, 2011. Kling Klang – Deutsche Grammar und Aussprache für Anfänger, Asahi Press, 2011. Speaking Italian, Sanshusha, 2011. “Neuroimaging of language” In: Kotoba no Ninchi no Shikumi (Language Recognition), Morio Kono (ed.), Sanseido, 2007.

**王睿来 (おうえいらい)**

神戸大学大学院国際文化学研究科博士後期課程学生  
主たる研究分野：日本語教育、中国語教育、音声学

**Ruilai WANG**

Ph.D. student at Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University, Japan.

Main topics of research: Japanese as second language, Chinese as second language, Speech communication.

**磯村一弘 (いそむらかずひろ)**

国際交流基金日本語国際センター専任講師  
政策研究大学院大学連携教授

主たる研究分野：日本語教育、教師教育、音声学

**Kazuhiro ISOMURA**

Lecturer, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa, Japan.

Professor (Joint Appointment), National Graduate Institute for Policy Studies, Japan.

Main topics of research: Japanese as second language, Teacher Training, Phonetics.

**新井潤 (あらいじゅん)**

国際交流基金関西国際センター日本語教育専門員

主たる研究テーマ：音声コミュニケーション、日本語教育

**Jun ARAI, Ph.D.**

Language Education Specialist, The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Kansai.

Main topic of research: Speech Communication, Japanese Language Education.

### 定延利之

京都大学大学院文学研究科教授

主要業績：『認知言語論』（大修館書店、2000）、『コミュニケーションへの言語的接近』（ひつじ書房、2016）

### Toshiyuki SADANOBU, Ph D.

Professor, Graduate School of Letters, Kyoto University, Japan.

Main topic of research: Grammar of Spoken Language.

Main publications: *Ninchi Gengoron (A Cognitive Study of Language)*, Tokyo: Taishukan Shoten, 2000. *Komyunikeshon-eno Gengoteki Sekkin (A Linguistic Approach to Communication)*, Tokyo: Hituzi Syobo, 2016.

### 馬場良二（ばばりょうじ）

熊本県立大学文学部日本語日本文学科教授

主たる研究分野：日本語教育

主要業績：『初級文化日本語』（文化外国語専門学校、1987年）、『ジョアン・ロドリゲスの「エレガント」』（風間書房、1999年）、『話してみらんね さしより！熊本弁』（熊本県立大学日本語教育研究室、2009年）、『João Rodriguez 『Arte Grande』の成立と分析』（風間書房、2015年）、訳『マクナイーマ』（トライ、2017年）。

### Ryoji BABA, Ph D.

Professor, Faculty of Japanese Language and Literature, Prefectural University of Kumamoto, Japan.

Main topic of research: Japanese Language Education.

Main publications: *Bunka Shokyū Nihongo (Basic Japanese of Bunka)*, Bunka Institute of Language, 1987), *Zyoan Rodorigesu no 'ereganto' ('Elegance' of João Rodriguez, Kazamashobō, 1999)*, *Hanashite Miran Ne, Sashiyori! Kumamoto-ben (Let's Speak Kumamoto Dialect!, Laboratory of Japanese Language Education in Prefectural University of Kumamoto, 2009)*, *Zyoan Rodorigesu Rodriguez 'Arte Grande' no Sēritsu to Bunseki (The Backgrounds of*



'*Arte Grande*' by João Rodriguez and its analyses, Kazamashobô, 2015), *MACUNAIMA*  
(translation, TRY, 2017).

**宿利由希子** (しゅくりゆきこ)

主な研究分野：日本語教育、社会言語学、コミュニケーション論

メールアドレス：shu9ri@gmail.com

**Yukiko SHUKURI**

Ph.D. student, Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University

Main research topics: Japanese language pedagogy, sociolinguistics, Communication

Mail address: shu9ri@gmail.com

**大内将史** (おおうち まさふみ)

元ノボシビルスク国立工科大学 日本語講師

主な研究分野：日本語教育、社会言語学、会話分析

メールアドレス：m-outi@imc.hokudai.ac.jp

**Masafumi OUCHI**

Ex-Japanese language instructor of Novosibirsk State Technological University

Main research topic: Japanese language pedagogy, sociolinguistics, conversation analysis

Mail address: m-outi@imc.hokudai.ac.jp

## 雑誌の案内(投稿の方法、連絡先)

『日本語音声コミュニケーション』(Japanese Speech Communication)は、日本語音声コミュニケーション学会の会員であれば、どなたでも投稿できます。(但し、会員以外からの投稿も査読委員会の判断で認めることがあります。)

研究会の「入会案内」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/apply.html>

「投稿要領」と「査読委員会会則」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/seika.html>

「査読委員会名簿」については、下記の web ページをご参照下さい。

<http://www.speech-data.jp/nihonsei/summary.html>

その他のお問い合わせは、下記までお願い致します。

定延利之(さだのぶとしゆき)(代表幹事)

sadanobu.toshiyuki.3x[at]kyoto-u.ac.jp ([at]の部分を@に変えてご送信下さい。)

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

## 編集後記

日本語音声コミュニケーション学会は、日本語の音声コミュニケーションとあるべき教育の姿を調査・研究することによって、日本語音声コミュニケーション研究とその教育の質的向上に貢献することを目的とし、2006年に日本語音声コミュニケーション教育研究会として発足しました。2013年には、世界的にも珍しい、音声と画像、動画を掲載できる電子雑誌『日本語音声コミュニケーション (Japanese Speech Communication)』を創刊、そして、2017年に学会となりました。現在は、年会費2,000円をいただいています。

学会への移行に伴って、規約、投稿要領が改定されました。その際、[投稿要領]の投稿区分に「実践報告」が加わりました。「理論に裏打ちされた意欲的な教育実践の記述とその分析、または、新しい教授法の提案につながる試み」と説明いたしましたが、本当は、「よく考えて工夫した授業のきちんとした報告」と言いたかったのです。これだと、何が「よく」で、何が「きちんとした」なのかが分からないので、前者のようにしました。

授業というのは生きもので、学習者の力とその目的、教師の力と志向、教育機関の方針、これら三つのバランスの上に成り立っています。だから、同じ授業はありません。このバランスをよく考え、学習者にとって最も有益な授業を工夫し、その背景をなす三者について記述して、一つの授業の全体がきちんとわかるような報告があれば、どれほど日本語教育の世界に寄与することでしょう。

このような授業は実践されていますし、それは理論に裏打ちされ、意欲的で、新しい教授法につながります。

ただ、日本語教師は記述しようとしません。責められるべきです。

みなさまの投稿をお待ちしています。

馬場良二(査読委員長)



日本語音声コミュニケーション学会  
Society of Japanese Speech Communication

日本語音声コミュニケーション 6

Japanese Speech Communication 6

## インタラクティブ PDF 版

発行 2018年3月30日 初版1刷  
著者 日本語音声コミュニケーション学会  
<http://www.speech-data.jp/nihonsei/index.html>  
発行・製作 株式会社 ひつじ書房  
〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F  
Tel.03-5319-4916 Fax.03-5319-4917  
郵便振替 00120-8-142852  
[toiawase@hituzi.co.jp](mailto:toiawase@hituzi.co.jp) <http://www.hituzi.co.jp/>

ISSN 2187-6177